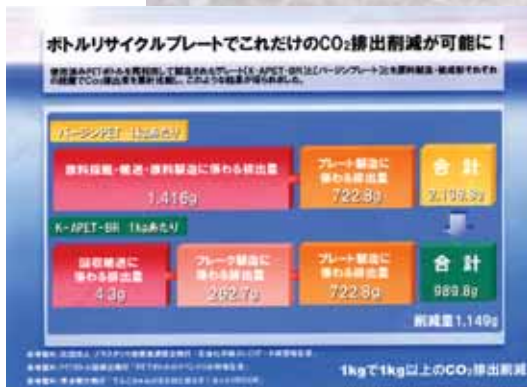


# 100%再利用の PETボトルから生まれる 純透明のプレート



## 笠井産業株式会社

### 再生PETボトルから 厚さ0.5〜5mmのプレート

「愛地球博」で使われたゴミ箱、建築現場のフェンス、マネキンのボディ等がPETボトルでできていると知って驚く。それらは笠井産業が再生PETボトルを100%利用して作った純透明プレート「K・APET・BRシリーズ」から加工された品々である。

「当社は使用済みのPETボトルが主原料なのでリサイクル率100%の会社です。ほかにも再生PETボトルからシートを作っている会社はありますが、0.2〜0.8mmの薄いものばかり。再生PETボトルを原料に5mmまでの厚みがあり、しかもバージンPETと同レベルの加工性を持つプレートを作れるのは世界中で当社だけです」と笠井実社長。オンリーワン、すなわちナンバードワン企業である。

### 100%再生原料で バージンPET市場を席巻 地球環境の保全に貢献する

京都議定書の発効により、温暖化ガス排出量の報告が義務づけられた。今や常識となったエコロジーだが、笠井産業では環境を配慮した「ものづくり」に早くから取り組み、地球環境の保全に貢献してきた自負がある。

原料は指定法人が回収、再資源化したリサイクルPETボトルを中心とした100%再生原料のプレート。それを厚み5mmの透明プレート

にするのだが、厚さが0.2mmのプレートと2mmのプレートでは異物が混入する割合も10倍高く、黒点や異物が混じりやすくなる。むしろ黒点や異物が多いと透明にするのがより難しくなる。

また、プレートは額縁や看板等に、そのまま使用されるためスペックが厳しく、混入が微量でも許されない。それらを技術的にクリアして初めてバージンPETと同じ市場に並ぶことができるのだ。

### 未来へ向けて 再生PETボトルを追求

本格的にPETボトルの再利用を考えたのは7〜8年前のこと。かつてリサイクル材を使った製品は「安かろう、悪かろう」という認識と、リサイクルだから精度が低くて当たり前だと思われていた。

そんな時代に先代社長が半分リサイクルで半分バージンの材料を使い、品質はバージンに近いという斬新な製品を作って世間で認められた。その後、リサイクルにシフトしていったのである。

「エコは『何とかしよう』という気持ちがないとできるものではありません。諸外国とは違い、日本ではまだまだリサイクルへの理解や意識が乏しい。小さいうちから啓蒙する必要があると思います」と笠井社長。地元の小中学生に環境問題や資源問題について考えてもらえるよう工場見学を行ったり、「空き容器BOXに入れたら、下敷になって帰ってくるよ」と500mlのPETボトル約

1・3本からB5の下敷き1枚が作れることを伝えたりしている。さらにそうしてできた下敷きをプレセントする計画を立てている。これからもPETボトルの可能性を模索しながら、人を大切に、地球に優しい企業としての姿勢を守りたいという。

#### 主な事業内容

硬質塩化ビニールの平板・シート・下敷・A-PETプレート・G-PETプレート・ABSプレート等の製造・販売等



笠井 実さん  
代表取締役社長



井上 寛さん  
常務執行役員  
製造本部長

#### Company Profile

笠井産業株式会社

住所 〒581-0042  
大阪府八尾市南木の本1-9  
創業 昭和21年4月  
設立 昭和36年4月  
資本金 3,603.6万円  
従業員 70名 (平成21年1月現在)  
TEL 072-923-3681  
FAX 072-991-7033

ISO 9001

<http://www.kapilon.com/>